

平成 29 年 4 月 3 日

横浜市長 林 文子様

認定 NPO 法人ホタルのふるさと瀬上沢基金
横浜市港南区港南台 9-30-31
理事長 角田東一
e-mail: segamikikin@gmail.com

“上郷開発はバランスを崩す計画”

横浜市各部局では、“上郷開発はバランスの取れた計画”として推進していますが、國の方針や横浜市マスタープランに照らすと“上郷開発はバランスを崩す計画”ではないでしょうか。以下にその例を上げます。

- 1 温暖化によって地球平均気温は 100 年間で 1°C 上昇し、環境バランスが崩れはじめています。横浜市の平均気温は 2.8°C も上昇しており、環境バランスを大きく崩しています。
上郷開発は、緑地減少による温暖化ガス CO₂ 吸収機能の低下、新たに消費される熱量による温暖化、コンクリート化によるヒートアイランド化などで、環境バランスを更に崩す事になります。
- 2 日本の人口は既に減少しており、横浜市においても 2019 年をピークに減少が予測されています。横浜市マスタープランには「人口減少は避けて通れないため、都市経営上の観点から人口減少分に応じた市街地の縮退が必要です」と記載されています。空き家率も増加しており、横浜市でも 10% を超え空き家対策が問題になっています。
上郷開発による新たな市街地拡大は、都市経営バランス、空き家宅地バランスを更に崩すことになります。
- 3 緑被率は、昭和 50 年の 46% 台から平成 26 年は 28% 台に落ち込んでいます。“樹林地を守る”を主目的としたみどり税創設以降も減少し続けています。
上郷開発は、緑地保全を目的としたみどり税の主旨と宅地拡大による緑地破壊とのバランスに欠けた計画ではないでしょうか。
- 4 人口減少下の市街化区域拡大は当面の税増収にはなりますが、子や孫の世代にはインフラ維持費増大で過度の税負担を押し付ける事になります。
上郷開発は、目先の利益優先と将来世代の税負担増のバランスに欠ける計画

ではないでしょうか。

5 横浜市生物多様性横浜行動計画では、円海山周辺緑地を“つながりの森”エリアとしていますが、上郷開発で“つながりの森”エリアの緑地を潰すことは生物多様性バランスを崩す計画では無いでしょうか。

上記1～5項について、横浜市政最高責任者として広い視野と将来を鑑み、林文子市長の見解をお伺い致します。

ホタルのふるさと瀬上沢基金は

市民と協力して、長い間守られてきた瀬上沢緑地の取得・借用・保全を通じて地球環境を守り、子供や孫たちの世代に豊かな自然を残す為に活動しています。

H29.3.18 現在 会員：226名 寄付：14,448名 973万円
寄付金は瀬上沢緑地の取得・借用。保全のために積み立てられています。